

## モバイル健康管理サービスの評価に関する研究

丁, 一

<https://hdl.handle.net/2324/1959136>

---

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (芸術工学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

氏 名 : 丁 一

論 文 名 : モバイル健康管理サービスの評価に関する研究

区 分 : 甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

近年の生活環境の急速な変化とともに、若年層において生活習慣に関わる健康問題の顕在化は大きな問題になっており、自己健康管理の重要性が議論されるようになってきた。一方、健康支援機能を持つデバイスとアプリによって構成されるモバイル健康管理サービス（以下、MH サービス）では受容性問題が報告されている。以上から、本研究はユーザー視点による MH サービスの評価指標の構築を目指したものである。

MH サービスはハードとしてのデバイスとソフトとしてのアプリによって構成された諸機能の複合体であるが、本研究ではユーザー視点からユーザーが接するアプリの表示機能によって提供されるコンテンツに焦点を当てる。そして、本研究は MH サービスの改善や創出に寄与する観点で評価指標を作成し、提案することと、その実践的応用として既存の MH サービスを評価し、その結果から今後の評価指標とサービスのあり方などについて、今後の類似研究に参考となるような新たな知見を得ることを研究目的とした。

まず、MH サービスの評価方法に関する先行研究に対して文献調査を行い、評価項目の作成に参考になると思われる項目として KJ 法を用いて「MH サービスの機能に関する提言」を抽出した。次に、日本在住の若年層（18 歳以上 30 歳まで）18 名に対して MH サービスに関する意識調査（面接調査）を行い、調査結果に対して内容分析法と KJ 法を用い、「MH サービスの受容に影響を及ぼす機能」を抽出した。最後に、日本在住の若年層（18 歳以上 30 歳まで）198 名に対して健康管理に関する意識調査（質問紙調査）を行い、その調査結果に対して因子分析を用いた結果、9 領域・36 項目の「若年層の健康管理領域」を抽出した。

前述の 3 つの成果（MH サービスの機能に関する提言、MH サービスの受容に影響を及ぼす機能、若年層の健康管理領域）について考察した上、「健康管理支援領域評価指標（若年層向け）」（9 領域・36 項目）と「健康管理支援コンテンツ評価表（若年層向け）」（9 分野・23 項目）の 2 つの評価指標を作成し、提案した。前者は MH サービスが若年層ユーザーの求める健康管理領域の中でどの領域を支援しているかを評価する指標で、後者は当該サービスの各領域においてどのような健康支援コンテンツが有しているかを評価する指標である。

この 2 つの指標の有用性を検証するため、まず、ユーザーが入手可能な MH サービス（24 種）を予め設定した条件により選定し、各サービスが提供しているコンテンツの中から関連項目を抽出した。次に、2 つの評価指標を用い、抽出したサービスの支援領域と支援コンテンツを評価することで、以下の実態が明らかになった。

1) 日本市場の MH サービスにおいて、運動、食生活などの健康領域が注目を集めているが、若年

層が高い関心を持つ皮膚、対人関係、精神、環境などの領域に対する支援は非常に不足しているため、既存サービスの健康管理支援領域と若年層の要望の間に大きなギャップは存在する可能性が示唆される。

- 2) 日本市場の MH サービスにおいて、健康情報、健康情報の分析などのコンテンツはすべてのサービスの導入されており、それ以外のコンテンツには大きな問題が見つからなかった。

本研究から得られた 2 種類の評価指標を日本市場の MH サービスに対して適用し、評価を行った結果、健康管理支援領域と健康管理支援コンテンツに関する実態を把握した上、さまざまな問題点も発見した。前述のような新たな知見を得たことで、本研究が提案した「健康管理支援領域評価指標（若年層向け）」と「健康管理支援コンテンツ評価指標（若年層向け）」は有用性があると思われる。また、2 つの評価指標の活用例として、「健康管理支援領域考察表」と「健康管理支援コンテンツ考察表」について議論をした。

本研究で得られた結論の意義としては、従来、情報学などでは、MH サービスに関する評価方法が存在していたが、デザイン学分野において評価指標は存在していなかった。本研究を通じて、MH サービスの支援領域と支援コンテンツを評価するサービスデザインに関連する評価指標、および評価指標から得られた考察表をサービスデザイン分野で初めて提示したことは、本研究の学術的に意義があると思われる。最後に今後の研究課題について述べた。